

[第 118 回藤樹人間学塾のご案内]



皆さま

9月は緊急事態宣言が出たので休講しました

令和3年9月

NPO法人高島藤樹会

- 日 時 令和3年 10月 2日(土) 15時～17時
- 場 所 高島市安曇川公民館(高島市安曇川町田中89)
- テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」
テキスト 中江藤樹著・西晋一郎通釈『中庸解・通釈』第 27 章 p.359～
塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)



いつもありがとうございます。

本塾は藤樹先生の教えを学び、人間いかに生きるべきかを共に考える形で進めています。

8月8日(日)午後、安曇川公民館で第117回藤樹人間学塾を開きました。今回は、お母さんと一緒に来た中1の娘さんを入れて参加者は8人でした。

まず、村上和雄先生が「致知」に寄稿された最後のメッセージ「人間の究極の願いは幸せになること」を紹介しました。

その内容は遺伝子のスイッチをオンにすることで人生をポジティブに生きることを伝え続けられた村上先生ご自身の幸福論ともいえるものです。

今回は『中庸解』第26章の後半です。皆で読み下し文と解釈の文章を輪読しました。

大意と補足説明はこうです。「天地の道」は、至誠の道であり、純一至善である。これは、サムシング・グレートと同義である。だから広く、深く、高大で、光明で、悠遠で、長久。目に見えないが厳然として存在する大いなるはたらきである。

「天」は宇宙。一部分は少し明るいものだが、その集合は、日、月、運行し、星が天に配列し、万物を覆っている。

「地」は地球。一握みの土に過ぎないが、その集合体は山を載せて重しとせず、大海を収めて漏らさず、一切万物を載せている。天地は、春夏秋冬運行し、百物生じて尽きない。

「万物」は、天からエネルギーをもらい、地から空気、水をもらって、天地の道のはたらきによって生かされている。これを大乘仏教で山川草木悉有仏性ととらえていると説明しました。

「人」は、万物と同じく天からエネルギーをもらい、地から空気、水、食料をもらって、各人が持つ37兆個の細胞が天地の道に生かされているのちが繋がっている有難い存在である。いのちの基本は呼吸である。そこでヨガの先生に丹田呼吸法の説明・実演をしていただきました。そして生かされている命をどう生かすかについて、誠の心が大事と説明しました。

参加者からは、「朝ドラで、海、山と空が繋がっていると言っているが、人間も繋がっていることが分かった」、「目に見えない力を感じる事ができれば、健康や幸せに結びつく可能性が高まってくると思った。感じる事ができるために『至誠やむことなし』が大切だと思った」、等の意見、感想をいただきました。

学ぶは愉し！人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。参加費は無料です。